

【用語】白井—北群馬郡子持村 急度—急ぎ 南衆—北条氏 註進—注進、事件等を急ぎ報告すること 定而—かならず、間違いなく 厩橋—前橋 越山—関東への出陣 北条丹後守—厩橋城主、北条高広

【解説】白井の在地領主であった白井長尾氏は、謙信の関東出陣以降、上杉方に属し、長尾孫四郎（憲景）を筆頭として白井衆を統率し上杉氏に従軍した。長尾憲景は、吾妻郡に侵攻した武田方の真田氏の攻撃を受け、永禄十年（一五六七）白井城から不動山城（赤城村）へ退去したが、天正元年（一五七三）三月、上杉方の沼田倉内城や厩橋城から応援を得て白井城を奪回したとされている。以後、憲景は吾妻郡と白井領の境で真田氏と戦鬪をくり返すことになった。天正元年六月上杉謙信は憲景に対し、信玄死去の情報や徳川家康・織田信長の動静などを伝えるとともに、今秋の関東出陣について相談したいので使者を派遣するよう求めた。

その謙信の書状と関係するかは明らかでないが、この文書は同年八月、小田原の北条氏政（ほつじょうしむさね）の侵攻に備えるため、長尾憲景が吉江喜四郎資堅を通じて謙信の上野出陣を依頼したもので、これによって厩橋城（まわしやま）の北条高広とともに北条軍の侵攻を阻止しようとしたのである。氏政は北条氏康の子で、元亀二年（一五七二）十月の氏康の死後、上杉氏と絶交する一方で、武田氏とは和睦したようである。なお、この書状の年次については天正二年説もある。